

牛久小さな旅

女化町界隈かいわい

―牛久版プロフェッショナル 仕事の流儀―

広報うしく市民特派員 齋藤さいとう 重じゅう

女化を歩くと家の周りをよく整えた家を見掛けます。豊かな農村生活です。家の周りは菜園になっていて南向きの庭には花が栽培され、家を巡ると北側は屋敷林(敷地の北西側に竹や杉、ケヤキを植え、風や雪から家を守る役割を果たして)おり、冬は暖かく夏は涼しい気温調整の役目や、身近な生物の生息地、木材や建材として利用するなどさまざまな利用効果がある)となっています。

身の周りですべて得ることのできる環境を、使い勝手のよい風景と呼ぶのでしょうか。その風景を維持するためには、勤勉な労働が必要でしょう。かつて日本の農村社会はどこもそうでした。都会人に郷愁を誘う農村集落を残してもらいたい。それを維持・経営し、食糧を生産する人達を心から応援しなくてはなりません。

気温調節の役目もある生け垣



女化町に農業技術の道のプロのお宅を訪ねました。高松求さんご夫妻です。土いじりや野菜の作り方、これから畑仕事をと考えている人に優しく「農」を伝授いただけると良いでしょう。最初に目に入るの美しい竹林と生け垣です。高松さん宅の地続きに平坦な竹山があります。空掘りのような排水溝と屋敷が分けられ、昔は畑だったところを新規造成して竹林にし、作業はしやすく安全に遊びもできる理想の竹林といえます。その特徴をみてみましょう。



きれいに整えられた竹林

周囲に人の背丈ぐらいの生け垣が回され、竹は全て6〜7m高に先端が落とされ、そろえられています。竹はまばらで竹林の向こう側が丸見えです。11月から翌年3月の間は竹林一面が緑肥小麦で青々となっているのです。

また、竹林内は倒れた竹や切り株は全く見えず庭園のような清らかさを味わうことができます。竹だけを利用した広い(60アール)日本庭園、竹林公園の趣そのものです。タケノコのブランド名「かぐや姫の子」で生産・販売をし、季節には近くの幼稚園児でいっぱいとのこと。文化的景観の保存に配慮したくなります。さて本題の「農」について、①農業機械の利用を軸に、深耕と全面

鎮圧を基本技術とし、さまざまな農作業機器は廃品を利用して自作をし、作業精度を高めています。肥料は緑肥とEMぼかしを使い化学肥料は極少量のみとし、除草剤をはじめ農薬はなるべく使用しないとのこと。②収穫物は良品で標準収量を越える量を生産し自立経営を目的とする、また経営コンセプトは「価格、品質の両面で輸入食糧に負けない生産ができる農業(林業)をし続ける」と言いきっています。

除草技術については、試行、改良しながら耕耘くわん、碎土さいど、畝立うねたて、播種はくしゅの各段階で作業精度を高め、耕耘は深く荒く、碎土は上層5cmくらいを細かく丁寧に、そして全面鎮圧、播種は均一にするのとこの「機械の使い方を覚えれば高齢者でも十分にやっています」と、高松さんはプロ農家として、自信をもって話していました。誠に計算し尽くした高精度農業といえます。「仕事の流儀はいつでもどうぞ」と笑顔で応えてくれました。なお、女化町集落の中心には「女化神社」(龍ヶ崎市駒馬町女化)があり祭礼の初午は3月19日(水)。植木の市がたちます。